

平成21年度 決算と市の財政状況



平成21年度の各会計の決算がまとまり、9月定例市議会で認定されました。

平成21年度決算の概要と、市の財政状況について一般会計を中心にお知らせします。

一般会計 決算の概要

歳入は20年度より18億1552万円増加して、148億8481万円でした。国の景気対策などにより、国庫支出金などの歳入が増加し、以前と比べて財政状況に余裕ができました。

しかし、市税などの自主財源は減少しており、国からの交付金頼みの財政運営に変わりはありません。歳出は20年度より17億3634万円増加して、142億2025万円でした。人件費や公債費などの義務的経費が減少したことで、その分を豊栄小学校屋内運動場改築事業などの政策的な経費の財源にまわすことができました。しかし義務的経費のうち、扶助費は増加しており、公債費も今後、増加に転じる見込みです。

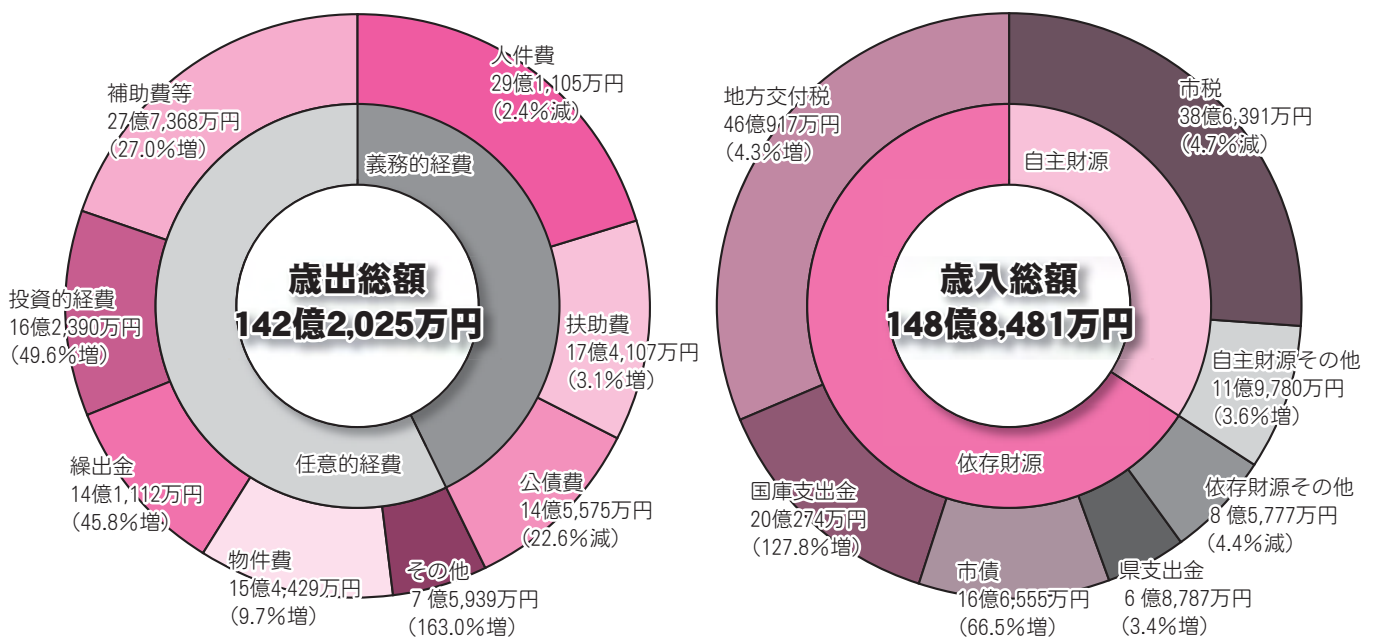
財政状況

決算は赤字に
なっていない？

(表1)

歳入歳出差引額から翌年度に繰り越すべき財源を除いた額を実質収支といいます。この実質収支が赤字になるという事は、当該年度の収入で、支出を賄うことができなかったということです。この場合、事業を見直すか、市税や保険料などを値上げしなければ、将来にわたって現在のサービス水準を維持することができません。

一般会計決算の実質収支は6億1560万円の黒字、市全体で見ても15億7948万円の黒字でした。将来にわたって維持できるサービス水準であったといえます。しかし、病院事業会計では5398万円の純損失が出ています。また、平成22年度から保険料の見直しを行った国民健康保険特別会計も、5428万円の黒字でしたが、一般会計から赤字補てんとして3億円の特別繰出をしたことによるものです。



市の借金は どのくらい？

市の借金である市債の残高は、一般会計が127億2565万円、病院事業会計が17億9745万円あり、市全体では145億2310万円でした。20年度末より2億954万円増加しています。

市の借金を借入目的別に見ると、一般会計の残高で最も多いのは臨時財政対策債で42億6171万円、続いて道路などの土木債が35億9710万円、学校の校舎などの教育債が16億5913万円です。（臨時財政対策債とは、財源が不足する地方交付税の代わりに発行する地方債で、将来、元利償還金の全額が国から補てんされ、実質的に市の負担はありません。）

本市では、これらの借金を主に国などの公的資金から借りており、借入総額の7割を占めています。そのほか市内の金融機関などから借りています。

一般会計の市債残高を市民一人当たりするとおよそ32万円です。これを県内36市で比べると、本市は借金が多いほうから数えて12番目です。

36市の平均は29万円、本市はこれより多いです。

また、病院事業会計の借金は市民一人当たり4万円、国の借金は国民一人当たり693万円、さらに千葉県の借金は県民一人当たり52万円です。ので、匝瑳市民は国と県、市を合わせて、一人当たり781万円の借金を背負っていることとなります。

市の貯金は どのくらい？

市の貯金を基金といいます。本市には、自由に使える財政調整基金のほか、学校施設整備の財源とするための学校施設整備基金など、14の基金があります。

これらの基金の残高は、合計で23億346万円でした。新たに地域振興基金に2億6千万円を積み立てたことから、20年度末より3億2774万円増加しています。

このうち財政調整基金の残高は、20年度末より1億1353万円増加し、7億1036万円でした。市民一人当たりになると1万8千円で、県内36市の平均の2万6千円と比べて少なくなっています。

健全化判断比率

・資金不足比率

(表2、3)

財政状況が著しく悪化する前に、財政状況を明らかにし、悪化した場合にも迅速に対応を取れるよう、地方公共団体は毎年度、健全化判断比率と資金不足比率を監査委員の審査に付した上で議会に報告し、住民に対し公表することが義務付けられました。

この健全化判断比率により、「健全段階」、自主的な改善努力で健全化を行う「早期健全化段階」（イエローカード）、国の関与で確実な再生を行う「財政再生段階」（レッドカード）の3つの段階に区分されます。早期健全化段階や財政再生段階になった場合には、それぞれの段階に応じた枠組みに従って、財政健全化を図ることとなります。

平成21年度決算における本市の健全化判断比率は、いずれも早期健全化基準を下回っており、健全段階にあります。資金不足比率についても、経営健全化基準を下回っており、健全段階にあります。

■ 財政課 財政班

☎ 73・0085

表1 会計別決算額

	歳入	歳出	差引	繰越財源	実質収支
一般会計	148億8,481万円	142億2,025万円	6億6,456万円	4,896万円	6億1,560万円
国民健康保険特別会計	51億5,973万円	51億545万円	5,428万円	—	5,428万円
老人保健特別会計	2,453万円	143万円	2,310万円	—	2,310万円
後期高齢者医療特別会計	5億5,190万円	5億5,105万円	85万円	—	85万円
介護保険特別会計	25億4,462万円	24億2,747万円	1億1,715万円	—	1億1,715万円
	収益	費用	差引		資金剰余額
病院事業会計	25億4,464万円	25億9,862万円	▲5,398万円	—	7億6,850万円
	合計				15億7,948万円

表2 健全化判断比率

	内 容	匝瑳市	早期健全化基準 (黄信号)	財政再生基準 (赤信号)
実質赤字比率	市の財政規模に対する一般会計の赤字の割合	赤字なし	13.40%	20.00%
連結実質赤字比率	市の財政規模に対する全ての会計の赤字の割合	赤字なし	18.40%	40.00%
実質公債費比率	市の財政規模に対する借金返済額の割合	13.9%	25.0%	35.0%
将来負担比率	市の財政規模に対する負債の割合	90.0%	350.0%	

表3 資金不足比率

	内 容	病院事業会計	経営健全化基準
資金不足比率	公営企業の事業規模に対する資金不足額の割合	資金不足なし	20.0%